

## 日清製粉グループ 中間連結決算、通期連結業績予想

### [平成20年3月期中間連結決算]

#### コストに見合った適正な価格改定の実行開始

株式会社日清製粉グループ本社（社長 村上 一平）の平成20年3月期中間連結決算につきましては、厳しい販売競争が継続する中、各事業において新製品投入やシェアアップを図り、売上げを拡大するとともに、更なるコストダウンに取り組んでまいりました。また、本年4月に輸入小麦売渡価格が平均1.3%引上げられたことに伴い、本年5月に業務用小麦粉の価格改定を行いました。小麦以外の原材料や商品等の調達コストも相場の高騰や円安により上昇し、内部努力では吸収できない水準に達しており、適正な利益を確保するため、加工食品等についても価格改定に取り組みました。

この結果、売上高は2,108億51百万円（前年同期比101.5%）と増収となりましたが、営業利益は82億7百万円（前年同期比91.6%）、経常利益は103億36百万円（前年同期比94.6%）と、主として調達コストの上昇と販売条件の悪化等により減益となりました。中間純利益は特別利益の増加により62億37百万円（前年同期比115.5%）と増益となりました。

### [平成20年3月期通期連結業績予想]

#### 小麦の政府売渡価格引上げに伴う調達コストの上昇に見合った価格改定を実施するが、それに伴う一時的な販売数量の減少を見込み当初予想を引下げ

調達コストの上昇や販売条件の悪化など事業環境は厳しい状況になっておりますが、本年度をボトムとして業績を回復基調に戻すべく、取り組みを進めてまいります。国内では、一層のシェアアップ、次世代新製品開発のスピードアップ並びにコストダウンを図るとともに、調達コストに見合った適正な利益の確保を図ってまいります。製粉事業では本年10月の輸入小麦の政府売渡価格の大幅な引上げを受け、11月には業務用小麦粉の価格改定を実施し、加工食品事業においても小麦粉を始めとする調達コストに見合った製品価格とすべく価格改定を実施してまいります。また、海外では、北米、東南アジア、中国でコスト面、販売面の競争力強化を図ってまいります。

平成20年3月期通期の連結業績予想につきましては、下期において業績回復に向けた諸施策を進めてまいります。価格改定により一時的に販売数量が減少することが見込まれることから、売上高は4,280億円（前期比102.3%）、営業利益は185億円（前期比96.4%）、経常利益は221億円（前期比96.9%）、当期純利益は120億円（前期比97.5%）と当初公表の予想を引下げております。

### [積極的な利益還元]

#### 今年中に5百万株、60億円を上限とする自己株式取得を決定するなど積極的な利益還元を継続。

会社の利益配分に関しましては、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案するとともに、連結ベースでの配当性向については30%以上を基準として、株主の皆様のご期待に応じてまいります。当社では、過去から株主の皆様への利益還元を積極的に進めており、当期におきましても、5百万株、60億円を上限とする自己株式取得を決定いたしました。

以上